

主要建設資材価格の動向

1. はじめに

建設資材価格の動向について、一般財団法人経済調査会発行の「月刊 積算資料」で発表している2022年6月調査結果を用いて考察した。

世界経済がコロナ禍からの回復基調を強めたことを契機に高騰した国際的な資源相場は、ウクライナ危機と円安の要因が加わったことで騰勢を強め、建設資材の原材料コストや輸送コストに大きな影響を与えている。

表一は、建設資材28資材の東京地区（大口価格）の価格推移であるが、異形棒鋼、H形鋼、普通鋼板、ストレートアスファルト、正角材 杉、平角材 米松、コンクリート型枠用合板、ガス管は前年同月比で30ポイント以上の大幅上昇となっている。

2. 主要建設資材価格の動向

主要建設資材の価格動向（2022年6月調べ、東京地区・大口価格）は以下のとおり。

表一 主要建設資材価格推移（東京地区・大口価格）

円（消費税抜き）

資材名	規格	単位	2021年 6月調べ	2021年 9月調べ	2021年 12月調べ	2022年 3月調べ	2022年 6月調べ	変動（前年同月比）
灯油	スタンド 18ℓ缶	缶	1,476	1,512	1,710	1,818	1,836	360 円高（+ 24.4%）
A重油	（一般）ローリー	kℓ	68,000	71,000	79,000	88,000	83,000	15,000 円高（+ 22.1%）
ガソリン（石油諸税込）	レギュラー スタンド	ℓ	136	138	148	153	149	13 円高（+ 9.6%）
軽油（石油諸税込）	ローリー	kℓ	101,000	104,000	112,000	121,000	116,000	15,000 円高（+ 14.9%）
異形棒鋼	SD295・D16	kg	85	88	96	101	120	35 円高（+ 41.2%）
H形鋼（細幅）	200×100×5.5×8 mm (SS400)	kg	90	103	109	110	120	30 円高（+ 33.3%）
H形鋼（広幅）	300×300×10×15 mm (SS400)	kg	90	103	109	110	120	30 円高（+ 33.3%）
普通鋼板（厚板）	無規格 16～25 mm 3×6 フィート	kg	95	120	135	135	140	45 円高（+ 47.4%）
セメント	普通ポルトランド バラ	t	10,800	10,800	10,800	10,800	11,800	1,000 円高（+ 9.3%）
コンクリート用砕石	20～5 mm（東京17区）	m ³	4,650	4,650	4,650	4,950	4,950	300 円高（+ 6.5%）
コンクリート用砂	細目洗い（東京17区）	m ³	4,850	4,850	4,850	5,000	5,000	150 円高（+ 3.1%）
クラッシュラン	40～0 mm（東京17区）	m ³	4,650	4,650	4,650	4,750	4,750	100 円高（+ 2.2%）
再生クラッシュラン	40～0 mm（東京17区）	m ³	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
生コンクリート	強度 21 スランプ 18 cm 20(25)mm（東京17区）	m ³	14,700	14,700	14,700	15,000	15,200	500 円高（+ 3.4%）
アスファルト混合物	密粒度 13 mm （東京都区内）	t	9,200	9,200	9,200	9,200	9,700	500 円高（+ 5.4%）
再生加熱アスファルト混合物	再生密粒度 13 mm （東京都区内）	t	8,200	8,200	8,200	8,200	8,700	500 円高（+ 6.1%）
ストレートアスファルト	針入度 60～80 ローリー	t	84,000	89,000	95,000	96,000	120,000	36,000 円高（+ 42.9%）
PHCパイプ A種	350×60 mm×10 m	本	29,600	29,600	29,600	32,900	32,900	3,300 円高（+ 11.1%）
ヒューム管	外圧管 B形 1種 呼び径 300 mm	本	10,500	10,500	10,500	10,500	10,500	
鉄筋コンクリートU形 コンクリート積みブロック	300B 300×300×600 mm 滑面 250×400×350 mm	個	1,580 640	1,580 640	1,580 640	1,580 640	1,580 640	
正角材 杉（KD）	3.0 m×10.5×10.5 cm 特1等	m ³	65,000	115,000	120,000	115,000	115,000	50,000 円高（+ 76.9%）
平角材 米松（KD）	4.0 m×10.5(12)×15～ 24 cm 特1等	m ³	78,000	115,000	120,000	120,000	120,000	42,000 円高（+ 53.8%）
コンクリート型枠用合板	無塗装品ラワン 12×900×1,800 mm	枚	1,370	1,550	1,700	1,820	2,000	630 円高（+ 46.0%）
電線・ケーブル	CV 600 V 3心 38 mm ²	m	1,425	1,484	1,557	1,670	1,785	360 円高（+ 25.3%）
鉄スクラップ	ヘビー H2	t	38,000	37,500	45,000	50,500	46,500	8,500 円高（+ 22.4%）
ガス管	白管ねじなし 25 A	本	1,840	1,840	1,950	2,270	2,520	680 円高（+ 37.0%）
塩ビ管	一般管 VP 50 mm	本	1,230	1,230	1,230	1,230	1,440	210 円高（+ 17.1%）

出典：（一財）経済調査会『月刊 積算資料』

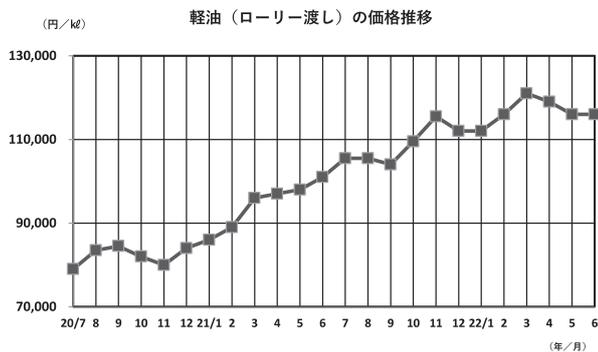
（注）毎月10日までに得られた調査結果

統計

(1) ガソリン（スタンド渡し）

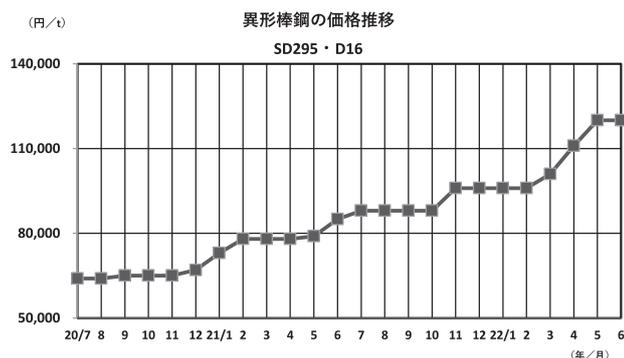
価格は、レギュラーでℓ当たり149円（消費税抜き）どころと前月比2円の続落。需要の冷え込みから、数量志向の販売業者が増加したことで市況は軟化した。足元では、元売卸価格が反発し、補助金では流通価格の上昇を抑制できない状況。このため販売業者は、先高観からコスト重視の姿勢に転じる公算が大きく、先行き、強含みで推移する見通し。

(2) 軽油



政府の補助金給付により軟調に推移した市場価格は、6月に入り原油相場が上昇したことでじり高に転じ、価格はℓ当たり11万6,000円どころと横ばいとなった。足元では、ロシア産原油の禁輸措置を巡る供給不安から原油相場は騰勢を強めており、流通業者は一段と売り腰を強めるとの見方が多い。先行き、強含みの公算大。

(3) 異形棒鋼



足元の需要が低迷する中、主原料である鉄スクラップ相場の続落を背景に、需要側が当用買いの姿勢を強めている。合金鉄や電極などの副資材費や電力料金の高騰により、これまで赤字操業を余儀なくされてきたメーカー各社は強い売り腰を堅持。流通側も需要側の値下げ要求に応じる気配はみられない。

価格は、SD295・D16でt当たり12万円どころと前月比横ばいで推移している。前月に過去最高値を更新したが騰勢は一服した。

製販側は、採算改善に向けて引き続き販価の引き上げに取り組む構え。一方、需要側は原料相場が下落基調の中での値上げに対して強く抵抗を示しており、価格交渉は平行線をたどっているもよう。先行き、横ばい推移の公算が大きい。

(4) H形鋼

価格は、200×100でt当たり12万円と前月比2,000円の続伸。電力料金や副資材費などの高止まりを受け、製販側は、製造コストの上昇分を価格に転嫁すべく強硬に値上げを進めている。4月末の日本製鉄の建材製品を扱う商社・特約店などで構成される「ときわ会」在庫は前月比5.7%減で、2カ月連続減少となった。

需要側は、原材料の鉄スクラップの急落により値下げ要求を強めたいところであるが、納期が迫る物件から数量確保を優先するため値上げを受け入れざるを得ない状況となっている。先行き、強含みで推移する見通し。

(5) セメント

セメント協会まとめによる4月の東京地区セメント販売量は前年比6.9%増加し24万2,349tとなった。全国的には、人手不足による工事の長期化の影響などを受けて出荷量は低迷しているが、都市部を中心に複数の市街地再開発工事が本格化しており、需要は回復基調にある。価格は、普通ポルトランド・バラでt当たり1万1,800円どころと前月比変わらず。メーカー各社の2,000円以上となる大幅値上げについて交渉が進展し、先月までに一部が浸透した。販売側は、未達分についても早期決着を目指しているが、値上げの一部を受け入れた需要側の抵抗は強い。価格交渉には時間を要する見通しで、当面、横ばい推移。

(6) コンクリート用砕石

価格は、20～5mmでm³当たり4,950円。年度末の上伸以降横ばいで推移している。

需要は尻上がりに増加し、競合要因が減少する中、供給側は今後、運搬車両不足が一層懸念されることに加え、燃料油価格上昇の影響が大きいことから、さらなる価格引き上げを求めたいとしている。

一方、需要側は値上げに対して反発する姿勢を示しているものの、一部には安定供給を維持するためには価格の引き上げを容認する動きもみられる。市況は当面、現行値圏内を推移する見通しだが、供給側は値上げに向けて強気の姿勢で交渉に臨むとみられる。

(7) 生コンクリート

東京地区生コン協組調べによる5月の出荷量は、前年同月比19.8%増の22万9,951m³。今年度入り後、2カ月連続で前年の実績を上回った。今後も都市部における市街地再開発事業向けの需要が出荷を下支えするとみられる。

価格は、21-18-20でm³当たり前月比200円上昇し1万5,200円どころ。同協組が2020年4月から取り組んできた1,000円の値上げは、需要増を背景に販売側の売り腰が引き締まったことから未達

分の交渉が進展。2年をかけて段階的に価格は上昇し、これではほぼ満額が浸透した。

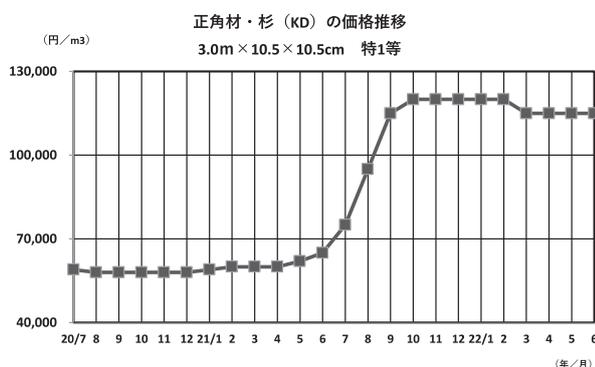
同協組は、6月からさらに3,000円の大幅値上げを打ち出している。需要側は原料コスト高に一定の理解を示しているが、大幅値上げに対する抵抗は強く、しばらくは模様眺めの展開が続くとみられる。先行き、横ばい推移。

(8) アスファルト混合物

4月の都内向けアスファルト混合物の製造量は11万3,012tと、前年同月比9.6%減（東京アスファルト合材協会調べ）となった。コロナ禍の影響による民間需要の不振に加え、依然として維持修繕等の小規模工事が需要の中心で、需要回復には時間を要する見通し。

価格は、再生密粒度（13）でt当たり8,700円と前月比変わらず。原油価格高騰の影響でストレートアスファルト価格が続伸していることから、販売側は値上げ未転嫁分の浸透に向け、売り腰を引き締めている。需要側も原材料であるストレートアスファルト価格上昇には一定の理解を示すも、さらなる値上げには難色。交渉は平行線をたどっている。目先、横ばい推移の見通し。

(9) 木材



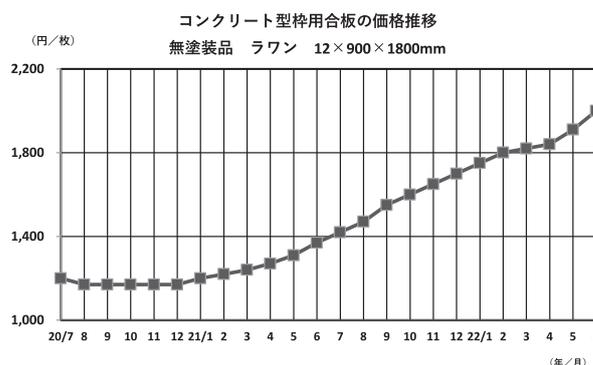
足元の住宅需要は、建築資材の高騰や住設機器不足から盛り上がりに欠く状況。木材の荷動きは低調に推移している。

価格は、正角材・杉 (KD) 3.0m×10.5×10.5cm 特1等でm³当たり11万5,000円どころ。流通在庫に不足感が出ていないが、流通側は、ロシアの輸出規制により欧州材の調達に困難になることに警戒を強めている。先行き、横ばい推移。

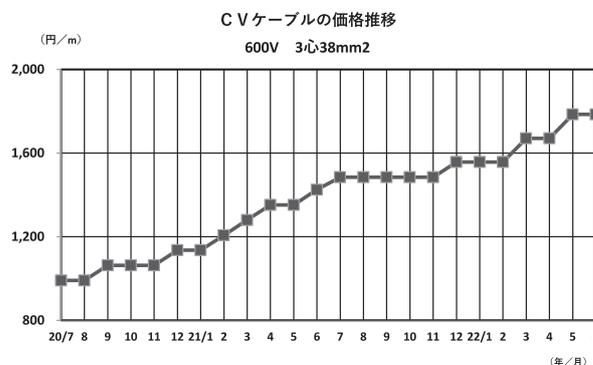
(10) コンクリート型枠用合板

産地の原木不足は解消せず、国内入荷量は依然として低水準。一方、流通各社は円安による高値玉の入庫が続いていることから、取引価格の引き上げを実施。

価格は、無塗装品ラワン 12×900×1,800mmで枚当たり2,000円の太台に到達。前月比で90円上伸した。今後も仕入価格の高値水準が続く見通しで、販売側は売り腰を一層強める構え。先行き、強含み推移。



(11) 電線・ケーブル



日本電線工業会の電線受注出荷速報によると、建設・電販向けの4月推定出荷量は約2万5,000tと前年同月比約1.0%の増加。首都圏では物流センター、データセンター工事向けの荷動きは好調なもの、需要の柱となる市街地再開発事業が端境期を抜け切れておらず、全体的には盛り上がりを欠く展開が続いている。

一方、国内電気銅建値は6月入り後にt当たり134万円と急騰したが、5月中の銅価が一時下落していたことから、需要側からの値下げ要求も散見された。しかし、流通側はこれまでの銅価高が十分に転嫁できていないとして応じる姿勢はなく、価格は、CVケーブル600V 3心38mm²でm当たり1,785円と前月比横ばいで推移している。

今後も、販売側は採算重視の姿勢を強め未転嫁分の引き上げに注力するもよう。先行き、強含みで推移。

(12) ガス管

メーカーの強気な販売姿勢から高値玉が入庫し始め、流通側が売り腰を強めたことから、価格は白管ねじなし25Aで本当たり2,520円と前月比250円高となり11%の上伸。需要は盛り上がりを欠くものの、流通側は引き続き4月以降のメーカー値上げ分の反映に向け強硬に交渉を進めるもよう。今後、一段高を巡る攻防が続く見通し。

統計

(13) 塩ビ管

価格は、一般管 VP50 mm で本当たり 1,440 円と前月比変わらず。中小物件が振るわず、都心部の市街地再開発事業が期待されるものの本格化はまだ先のため、荷動きは低調。配送コストの高止まりに加え、メーカー各社の度重なる値上げ表明を受け、流通各社は売り腰を強化。一方、さらなる値上げに需要者の反発も強く、交渉は難航している。先行き、横ばいの公算。

※各資材の価格推移の出典は、『月刊 積算資料』。

3. おわりに

図一1は、建設工事で使用される資材について、その価格変動を捉えることを目的とした「建設資材価格指数(全国主要10都市)」である。建設資材需要原単位の対象資材を勘案し、建築資材25品目と土木資材24品目を選択している(表一2参照)。

建設資材価格指数は、2020年9月調査から一度もマイナスになることなく上昇を続けている。前年同月比では、土木・建築総合が30.8ポイント上昇、建築が40.8ポイント上昇、土木が14.2ポイント上昇、建設資材価格の急騰ぶりを示している。

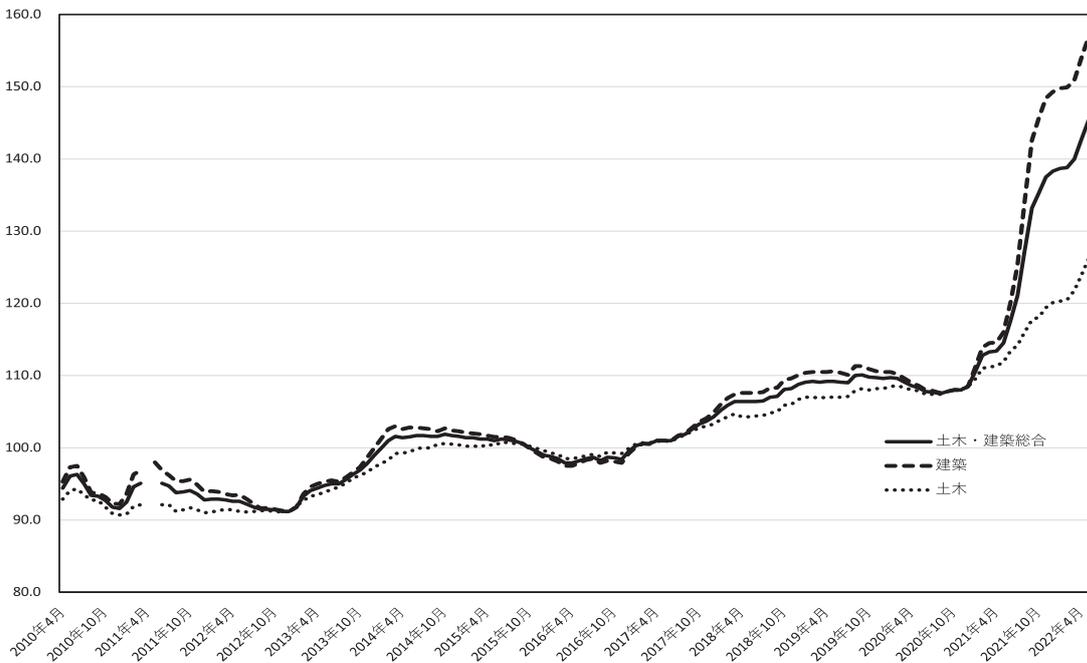
ロシアのウクライナ侵攻が長期化するにつれ、世界的な資源高の影響はさまざまな建設資材に広がっている。メーカーや流通筋の価格転嫁への動きは日を追うごとに加速、典型的なコストプッシュ型

の価格上昇局面となっており、建設資材価格の上昇は今後も幅広く続く公算が大きい。

(文責：坂下)

表一2 建設資材価格指数の対象資材

①建築資材品目		②土木資材品目	
資材	品目	資材	品目
01.セメント	1 セメント	01.セメント	1 セメント
02.生コンクリート	2 生コンクリート	02.生コンクリート	2 生コンクリート
03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類	03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類
	4 コンクリートボール・パイル		4 コンクリートボール・パイル
	5 コンクリート縁石・側溝		5 道路用等コンクリート製品
	6 建築用空洞ブロック		6 土木コンクリートブロック
	7 インターロッキングブロック		7 インターロッキングブロック
04.骨材	8 砂	04.骨材	9 砂
	9 砕石		10 砕石
05.瀝青材	10 防水工用アスファルト	05.瀝青材	11 ストレートアスファルト
06.再生アスファルト混合物	11 再生アスファルト混合物	06.再生アスファルト混合物	12 再生アスファルト混合物
07.普通鋼鋼材	12 H形鋼	07.普通鋼鋼材	13 H形鋼
	13 その他形鋼(除くH形鋼)		14 その他形鋼(除くH形鋼)
	14 鋼矢板		15 鋼矢板
	15 棒鋼		16 棒鋼
	16 構造用鋼管(含むコラム)		17 厚中板
08.仮設材	17 仮設材(H形鋼)	08.仮設材	18 鋼管杭・鋼管矢板
	18 仮設材(鋼矢板)		19 構造用鋼管(含むコラム)
	19 仮設材(その他)		20 その他鋼材
09.その他鋼材	20 その他鋼材	09.その他鋼材	21 仮設材(H形鋼)
	21 特殊鋼鋼材		22 仮設材(鋼矢板)
10.木材	22 製材(木造のみ)	09.特殊鋼鋼材	23 仮設材(その他)
	23 合板(厚6mm未満)		24 特殊鋼鋼材
	24 合板(厚6mm以上)		
	25 損料対象材(合板)		



(一財) 経済調査会「建築・土木総合指数」より作成。2015年度平均=100とした指数。
東日本大震災の影響により2011年4~5月データの一部に欠損が発生したため全国のグラフも欠損データとなっている。
詳細は、(一財) 経済調査会HP参照 (https://www.zai-keicho.or.jp/price_relative/)。

図一1 建設資材価格指数(全国主要10都市)